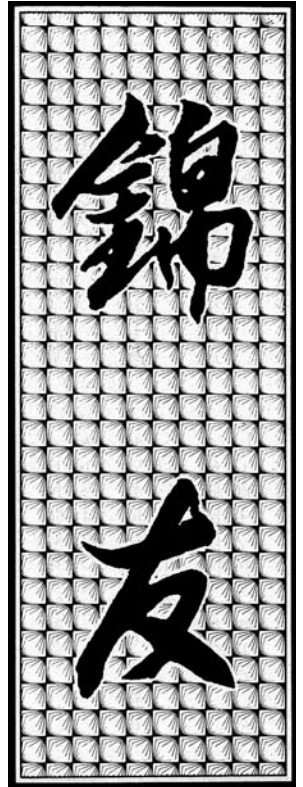


令和5年度

詩吟朗詠錦城流・一般社団法人詩吟朗詠錦城会

# 全 國 大 会

【開催日】 令和5年10月8日（日） 【開催会場】 ひこね市文化プラザ



一吟徹心霊  
一曲能興国

### 錦友…第315号

（令和5年11月20日）

・編集・  
一般社団法人詩吟朗詠錦城会  
・発行・  
一般社団法人詩吟朗詠錦城会  
東京都港区麻布十番2-4-14  
電話：東京03-5484-3301（代）  
〒106-0045

特別番組	琵琶舞物語	信	長
	企画番組	新	集
	詩吟物語	明治維新の	鐘
	琵琶舞	太田道	灌
	吟詠物語	雪月	花
企画番組	長	詩	篇



「近江」という、このあわわわとした国名を口ずさむだけで、私には詩がはじまっていた。かの文豪司馬遼太郎が「街道をゆく 近江・奈良編」に記した一節であります。言うまでも

なく「近江」とは滋賀県の旧名ですが、このような歴史と文化の薫る滋賀県の彦根市において、令和5年度の詩吟朗詠錦城流・一般社団法人詩吟朗詠錦城会の全国大会が開催されました。10月8日（日）ひこね市文化プラザグランドホールを会場とし、宗家・山元錦城先生、詩舞道錦城流宗家・本村緑崇先生はじめ、賛助の先生方、全国津々浦々から集った会員をお迎えして盛会裡に開催されました。当日の会場は、一般の方々（会員以外に無料招待券を配布）の来場者を合わせて八四〇席がほぼ満席の状態となり、熱気に満ちた雰囲気になりました。コロナウイルスも5類相当に引き下げられ、気分的には安堵の感はありましたが、会場内では感染予防に努めマスクの着用にご協力を戴きながら取り進めました。幸い何の事故もなく無事終了できたことは、開催地として何より有難く安堵いたしました。いよいよ開演です。場内に開

先ずご来場頂いた皆さまに謝意を述べられ、次いで「我が町彦根では2年後に彦根城の世界遺産登録を目指して大いに盛り上がっているところですよ。また、会場の目の前には満々と水を湛えた雄大な琵琶湖が広がり京都・大阪方面へ命の水を絶え間なく送っています。このように歴史と文化が薫る滋賀に、会員がごぞつて皆様をお迎えして大会が迎えられることはこの上ない幸せと存じます」と力強く開会宣言がなされました。4年前に大会誘致に手を挙げ活動を開始しましたが、会員数



会を知らせるブザーが鳴り響き緊張の時間の始まりとなりました。幕が開き、舞台中央には大会役員が並び、開催地を代表して林 錦枝滋賀県本部長が開会の辞を述べられました。

**お知らせ**  
来年の全国大会は、函館に変更となり、10月13日（日）、函館市民会館で開催です。

の減少に加え、高齢化が進むなかこの大事をどう乗り切るか不安一杯のスタートでした。県本部長を中心に準備会を立ち上げ、総本部の指導を頂きつつ現地としての執行計画と予算計画等を検討し、都度理事会で確認をしながら県下会員に周知して機運を高めていきました。その中で、開催地における大会委員は90名を選出し、人選上では、県本部の将来を担う若い人材を登用し、熟達者とのバランスを考えた編成がなされました。その成果は今大会の運営と今後に期待されることでした。当日の大会進行は、午前11時予定通り始まり、順調に進んで行きましたが、最後の番組「信長」が終わり、閉会は17時40分となり予定より遅れましたが、多くの方々をお迎えし、豊かなプログラム内容からして、時間の遅れよりも中身が勝る大会であったと思います。開催地の運営に当たった私達としても、大変疲れはしましたが、心地よい充実感と達成感を味わうことができ、大きな収穫だったと自己評価をしています。（次頁へ続く）

閉幕に当たり、来年度開催地の北海道道南本部長の竹崎錦里先生から閉会の辞があり、来年は多くの方が函館に足をお運びいただきたい。函館は素晴らしいところですが、特に食べ物も美味しい！観光を兼ねて是非とも越してください！とご挨拶をされました。



宗家先生には、滋賀の会員の数をご準備して頂いたことに心より感謝を申し上げるとともに、格式ある多くの番組を作り上げて頂いたことへの私達の喜びと宗家先生のご苦勞に思いを寄せ感謝申し上げます。

城戸城濤会長の式典のご挨拶の中に、「錦城流は、琵琶と吟と詩舞で総合芸術として舞台表現をしています…」とのお話を

されていましたが、来観者の感想の中にも琵琶・吟・舞の素晴らしい芸術性を評価する反応も窺われました。

今大会は、県本部における良き世代交代のきっかけとなり、今後繋がる貴重な大会であったと総括されました(本部長談)。

以下に来観者の声を記します。

- ★ 詩吟を初めて拝見したが、「信長」「太田道灌」の琵琶舞が目をつけた。
- ★ 出吟者は高齢の割には「背筋がピンと伸びて」すごい声を出される：感心した。
- ★ あれだけ多くの出演者を動員し、且、整然と動かす力は、何でしょう？
- ★ 琵琶の大演奏、あれだけの多人数の演奏で合わせるところが凄く感動した！
- ★ 詩舞(太田道灌)がよかった。
- ★ 詩吟つて、ほんまに素晴らしいもんや！もつと早くからやつとけばよかった(団体指導を受けている女性)

懇親会は、大会終了後、長浜市へ移動して「北ビワコホテルグライイエ」において19時より開宴され、参加者数は、二八〇人へのぼり、久々に賑いある懇親会となりました。

開宴に先立ち、城戸会長、宗家先生より今大会の成功と滋賀県本部会員に対し丁寧な労いのお言葉を頂きました。

宗家先生は、「この様に盛大な大会をもつことは今後難しいであろう」と涙しながら語られました。今回多くの番組を準備していただき、成功裏に終了できたことに感極まられたのであろうと拝察し、同時に今後の錦城流・錦城会の行く末に思いを馳せられたのであろうと思いを重く受け止め、今後を考えるべきと痛感した次第です。



今回の懇親会は会員相互の交流に重きを置き、カラオケは止めとしました。皆さんは大いに交流を深められた事と思います。

懇親会の結びは、会場が一つ

になれる趣向として、特設の檯を会場に設け、「江州音頭」で参加者ほぼ全員で踊りの輪を作ることが出来ました。

滋賀県の伝統芸能の音頭取り(音頭を歌う人)は、三代目家元 真鍮家文(しんちゅうけぶん)さんをお招きして口演をいただきました。



会場には大きな踊りの輪が出来て、さながら季節外れの超ビッグな盆踊り大会になり、踊りを通して大いに交流を深める事が出来て、懇親会の目的が果たせたかな？と思います。

次回に会うことを約して懇親会の結びとなりました、楽しい時間を有難うございました。

「江州音頭」解説

江州音頭は奈良・平安時代の仏教の声明に起源をもち、歌念仏と踊りを融合させ、特に明治

中期以降、民衆の中で盆踊りとして発展してきました。(資料提供：滋賀県本部 花本城香氏) (大会記録係 氏原城爽)



琵琶舞曲 「太田道灌」



琵琶舞物語 「信長」

茨城県本部

六十周年記念大会を終えて

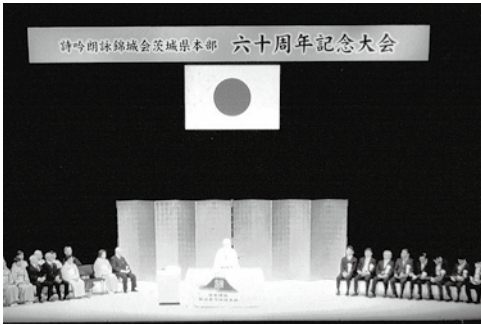
茨城県本部事務局 千葉城囿

令和5年9月10日、新装なつた水戸市民会館大ホールにて、記念大会を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、3年を経ての開催です。直前の8日から9日にかけて、日立市以北に線状降水帯が発生し、浸水や土砂崩れによる通行禁止など、多大な被害が出て、心配しましたが、当日は天候にも恵まれ、宗家・山元錦城先生にもご臨席賜わり、無事開催にまりました。

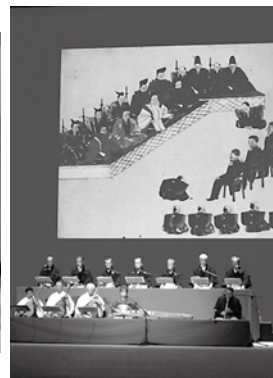
大会は会場の都合により、当日早朝から舞台設置し、リハールも午前中に行うなど、異例づくめで13時開演となりました。開会の辞、国歌斉唱そして大合吟「富士山」へと進み、プログラムは、最初に詩舞「富士山」を、詩舞道錦城流茨城教場の六名により、流祖・山元錦城先生のCDで紹介。そして三つの企画「水戸魂」は一龍齋貞心師匠の解説で、風景写真や詩文を背景に、

合吟を、最後の「水戸を賞す」では、茨城県吟詠剣詩舞総連盟の清水電瀧さんが剣舞を披露して好評を博しました。「中国の秋」は県本部会員の打越錦麗和さんの解説で、県本部女子会員が「水戸魂」同様の風景写真や詩文を背景に連吟・合吟・独吟を披露しました。記念式典では、主催者の大会会長・海野錦麗香茨城県本部長、錦城会会長・城戸城濤先生の挨拶の後、地元茨城県知事・大井川和彦氏（代読）、水戸市長・高橋靖氏はじめ多数のご来賓の方々よりも、ご祝辞を頂戴致しました。

「水戸魂」は一龍齋貞心師匠の解説で、風景写真や詩文を背景に、県本部男子会員が連吟・



なお、60周年記念大会開催に当たり、城戸城濤錦城会会長から地区普及に貢献した役員など5名に表彰状と記念品が贈呈されました。



最後に、特別番組・琵琶舞物語「井伊大老」では、県本部男子7名が、尺八の河野正明先生、箏の佐藤アキ子先生による伴奏で連吟し、城戸城濤先生、山元錦隆先生、青森の村上城修先生による琵琶絃・歌・吟、解説で一龍齋貞心師匠の賛助出演をいただき、更に茨城県吟詠剣詩舞総連盟から6名の賛助出演による剣詩舞も加わって、会場の多くの市民の方々に感銘をあたえる中で幕が下りました。

ご来場の愛好家だけでなく、一般の方々から絶賛の声も数多く頂き、感謝する次第です。また、本記念大会開催に際し、企画演出を担当された長崎県の坂本弘美先生、舞台設定に尽力されたグランドマザーの方々や、ご協力を頂きました皆様方から感謝申し上げます。

- 子 下蘭郁夫 小田原弦輝
川畑セツ子
石山支部 伊東さくら 黒部史朗 岡島伸夫
佐世保支部 平野英子 黒崎孝子
大隅道場 奥野 律
平東支部 吉原秀治
台東道場 志方猪一郎
佐久道場 塩川千広 佐塚英和
港道場 藤本晴代 稲川嘉子
日野江支部 藤原栄幸
水戸支部 西野信弘
神辺支部 三嶋玲子
瀬田支部 松本志津江
大津支部 傍田敏子
長浜支部 小倉竹寿
広島南支部 松岡玲音
吉井支部 山口孝子 土橋公江
福田敬子
伊万里支部 川副秀樹
大田支部 村田鐵郎
宮崎支部 深町文恵
守山支部 澤辺典子
出水支部 谷口鈴子
三日月道場 鐘ヶ江千草
船橋道場 大阿久恒男
小倉支部 山下麻美 大賀克之
前号で次の箇所間違いがありません。お詫びして訂正いたします。

◆新師範の紹介◆

Table with columns: 雅号, 県名, 取得年月. Lists names like 山本錦和 (長崎県) 5・7, 池内城祥 (長崎県) 5・7, etc.

新入会員の紹介 (6/20, 10/20)

- 鹿兒島支部 東千エ子 西村桂
奈美
稲沢支部 蘭田 武↓莊田 武

### 日本伝統文化吟友会 吟剣詩舞コンクール 関東決勝大会で入賞する

コロナ感染が5類となりましたが、例年になく猛酷暑の中の8月26日、日本伝統文化吟友会 吟剣詩舞コンクール関東決勝大会が、東京都中野区野方区民ホールで開催されました。

地区予選大会を乗り越え、関東決勝大会の出場権を獲得されたの出場となり、会場内も、緊迫した状況に包まれての大会となりました。

錦城会からは、先の皆様方が出場しました。

#### 漢詩・一般三部

佐藤法子(神奈川県)

渡辺淳子(東京)

齋藤幸子(埼玉)

松原慎一(埼玉)

#### 漢詩・一般四部

林 清隆(神奈川県)

木屋吉弘(東京)

小宮喜八郎(神奈川県)

久保寺 壽(東京)

中川新三(神奈川県)

#### 短歌・一般の部

林 清隆(神奈川県)

小宮喜八郎(神奈川県)

木屋吉弘(東京)

佐藤法子(神奈川県)

審査の結果は、漢詩一般四部は、第4位に、林清隆様、優秀賞が木屋吉弘様に贈られ、短歌

一般の部では、準優勝に佐藤法子様、優秀賞には、小宮喜八郎様が入賞されました。

80歳以上の方には、審査員特別賞が、中川新三様、木屋吉弘様、林清隆様、小宮喜八郎様に贈られました。

高年齢の95歳の挑戦でしたが、最後まで詠い切って見事な吟詠で

### 日本伝統文化吟友会 全国吟剣詩舞コンクール 中国地区大会

日本伝統文化吟友会・令和5年度全国吟剣詩舞コンクール中国地区大会が開催されました。

吟剣詩舞コンクールは、7月16日、岡山県倉敷市の倉敷公民館で開催され、錦城会広島県本部から7名が出場し、次の方々が入賞されました。

詩舞・一般二部  
優勝 藤井美由紀(全国大会)

詩舞・一般三部  
4位 中村妙子(全国大会)

5位 神原光江

吟詠コンクールは、7月23日岡山市の岡山国際交流センターで開催され、錦城会広島県本部から16名が出場し、次の方々が

した。

惜しくも入賞を逃されました皆様方も来年を期待しております。錦城会東京都本部、神奈川県本部、埼玉県本部の先生他委員にご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

尚、日本伝統文化吟友会では、吟剣詩舞コンクールに出場にあたって、文部科学大臣賞を授与される事になっておりますので、目標は高くして挑戦下さいますようお願いいたします。

入賞されました。

漢詩・少年の部  
優勝 北中彩月(全国大会)

漢詩・一般二部  
優勝 大村 誠(全国大会)

漢詩・一般三部  
8位 佐藤典伸

漢詩・一般四部  
4位 平川智久(全国大会)

入賞 佐々木重綱(全国大会)

短歌・一般の部  
優勝 小林文子(全国大会)

入賞 村上美保子

吟詠で1名、吟詠で4名が11月23日に埼玉県草加市で開催されます全国決勝大会に出場します。

(広島県本部 大村城川)

来る11月23日、埼玉県草加市中央公民館ホール・草加市アコスホールでの吟剣詩舞コンクール全国決勝大会のご健闘をお祈りいたします。

今後、全国各地予選会に参加し、技量の一助に役立ててご出場をお願いいたします。

(二社) 詩吟朗詠錦城会担当  
日本伝統文化吟友会 金子城大

本部の動き
(5・6・16より 5・10・15まで)

6月22〜23日 令和5年度定時  
総会・指導者講習研修

7月2日 小倉支部60周年記念  
温習会

6〜7日 全国大会プログラム編成会議

22〜24日 滋賀県本部湖南地区の師範指導  
8月19〜21日 北海道道南本部の講習研修会  
25〜27日 滋賀県本部の昇格審査

9月2日 福岡県本部の師範指導と昇格審査

10日 茨城県本部60周年記念大会

16〜18日 愛知県本部の師範指導と昇格審査

22〜24日 鹿児島県本部の講習研修会と昇格審査

30日 山口県本部の師範指導と昇格審査

8日 全国大会 滋賀県彦根市・ひこね市文化プラザ

「折々のことば」より (10月6日の朝日新聞朝刊掲載)

自分は余人をもつて代えがたい人間だと思ふな／  
そう思わせてもいけない

ドナルド・ラムズフェルド

自分が不慮の事故に遭つても混乱なく次の人に交代できる組織、要は自分がいなくてもやっていける組織を作るのがリーダーの責任だと、米国の元国防長官は言う。

それに自分がいなければ仕事が終わらないと思ひ込めば、大切な人との個人的な関係もついで犠牲になる。重要なのは「人」でなくあくまで「職務」と心得るべしと。

『ラムズフェルドの人生訓』から